

4/9 ルカの福音書 24 章 1-12 節 「死に打ち勝ったイエス・キリスト」

小池 宏明 牧師

ルカ 24 章によれば、イースター（復活祭）の朝は途方に暮れる女性の弟子たちの姿から始まる。それは、墓に納められたイエス様の遺体が見当たらなかったからだ。その時、光り輝く御使いが現れて、彼女たちに次のように語った。6-8 節「ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」彼女たちはイエスのことばを思い出した。」

*御ことばを思い出して信じた女性たち

途方に暮れていた彼女たちは、イエス様が「三日目によみがえり」と言われた言葉を思い出ただけで、心が元気になった。彼女たちは、他の弟子たちに知らせるために走り出すほどだった。私たちも、悲しんだり、驚いたり、日常生活の中でさまざまな体験をする。しかし、日々御ことばを聴いて思い出しながら生きるなら、私たちの心は喜びにかえられて行く。

*私たちも御ことばを思い出して

この福音書をまとめたルカは、おもに、異邦人に向けて福音を伝えたいと願っていた。私たちも異邦人の一人だ。私たちにとって、イエス様の十字架も復活も、遠い昔の遠い国の話であって、いくら「事実である」と言われても距離を感じてしまうかもしれない。そこで、御使いたちが勧めているように、御ことばを思い出することが大切である。これはルカ自身が、異邦人世界の私たちに勧めたいことだ。私たちも、静かに御ことばに聴き、主イエス様の復活の意味を確認したい。ローマ人への手紙でパウロが次のように語っている。8 章 11 節「イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリストを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられるご自分の御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだも生かしてください。」キリスト者は、キリストの復活のからだの一部になっていると言うのだ。死ぬべき者と定められている人間にとって、唯一の希望は主イエス様のよみがえりである。生も死も支配しておられるお方、信じる者に永遠のいのちの約束を下さるイエス・キリストは、過去の人ではない。イエス様は、生きていて、信じている私たちと共におられ、私たちのためにいつも執り成して下さるお方。御ことばの通りに死に打ち勝ち復活された主イエス様を賛美し感謝して、この喜びを隣人にお知らせする者となろう。

日本同盟基督教団 古河教会 牧師 小池宏明

〒306-0044 茨城県古河市新久田 478-10 E-mail: kch@koga-church.org

Tel: 0280-48-3088 Fax: 0280-48-6710 HP: <https://koga-church.org>